

2015 年度春学期 授業アンケート「教員コメント」の「FD委員会総括」

FD 委員会

<座学>

1. 複数の学生から、矛盾した要求が出されることに対して、苦慮している様子が多くの教員コメントに見られました。しかしそれを止揚するべく、より高い質の授業を目指すとの意見がほとんどでした。
2. 授業アンケートで指摘されたことのうち、直ちに対処できる技術的な気づきは、率直に省みるコメントが多く、具体的な改善案を示していました。スライド切り替えのタイミングや、学生のノートテイクのスピードの違いなどから、授業進行の調子を考慮している意見が散見されました。授業アンケートをしてこそ、気づくことのできた反省点が多かったようです。
3. 大教室でも工夫をして、アクティブ・ラーニングの実現に努めている様子が見られました。また予習復習を含めて、継続的な学習に配慮しておられるコメントが散見されました。
4. 学生による授業アンケートの指摘の中には、教員の個性や小さな癖を見つけて、それを改善するように求めるものもあったそうです。このような学生の記述に、とまどう教員の姿が見られました。
5. 授業アンケートの中には、教員に対して挑戦的な内容を書くものもあり、それが「教育意欲を減退させる」とコメントした先生もいました。しかし、授業アンケートに「迎合するだけでなく、ちゃんとした大学としての姿勢を見せる」と記述されていたことも印象に残りました。

<演習・実習系科目>

1. 座学と比して授業の評価が高いようです。それでもなお改善に意欲を示している教員コメントがほとんどでした。
2. 演習科目として、また最高学府として、ふさわしいレベルの授業負荷のかけ方について、多くの教員が頭を悩ませていました。受講者のパソコン習熟度の差や、適切な課題量については、いつも悩んでおられるようです。
3. ネガティブな授業評価に対して、冷静に分析し解釈しているコメントも見られました。批判的な指摘があるにしても、それについて一理を認めただけで、それでもなお現在の授業方針で、学生満足度も教育効果もあると判断していました。
4. アカデミック・リテラシーの授業アンケートの中には学生から「何のために授業しているのか分からない」との記述があったことを、複数の教員が指摘されていました。これに対しては授業冒頭での意義の説明、または授業のあり方を演習担当者で考えるべきとの記述がありました。また「40名という学生数が多すぎる」「受講者数が多くてメールチェックできない」「統一シラバスのため個別対応ができない」などの教員コメントが数多く見られました。全体で授業のあり方を議論すべきだとのコメントが複数件ありました。

<語学>

1. 歌、ゲーム、映画などを取り入れて、第二外国語として履修する学生たちを飽きさせないように工夫し、オフィス・アワーを利用して理解が不十分な学生を指導し、細かな添削やコメント、あらゆる方法でフィードバックをして語学力の促進をはかろうと

知恵を絞っている様子が伺えました。また、言語だけではなく、文化そのものにも関心を持ってもらうべく努力を重ねている様子が読み取れました。

2. 板書の問題が学生によって指摘されていたとのことですが、大学の授業では板書されたものを暗記するより、学んだ内容を使えるようにすることに主眼を置くとして、そうした授業方針を学生に周知させることが大切だとする先生がおられました。
3. 習得が遅れがちな学生と語学力に優れた学生に、次第に分かれていくという語学教育に特有の問題は、例年のようにコメントされています。予習復習、小テストなど、さまざまな工夫によって対応しておられました。
4. 授業中の出入り、私語、遅刻、携帯電話の使用などが一部の授業にあるようです。
5. 20人を超えると授業運営が難しくなるので、少人数クラスが望ましいとのコメントがありました。語学授業の効果や習得は、受講者人数に著しい影響を受けるようです。

<総括>

1. 今回、例年と異なっていたのは、今年から始まったアカデミック・リテラシーに関するコメントです。この科目へのとまどいを記された教員が多くおられ、そのうち複数の教員がこの科目の今後のあり方について言及していました。
2. 教員にとって、授業アンケート結果を見るのは大きなストレスです。15週にわたってやってきたことを、中傷ともとれるようなひどい批判によって報いられるのは、たまらない苦痛です。授業アンケートを見るのはときに憂鬱であり、勇気の要ることです。しかし、こうした緊張の中にあっても、本学教員にはよくFD活動に協力していただいております。

現代の大学教員は、常に批判や批評にさらされます。「学生による授業評価」に加えて、「研究者間による研究評価」「学内における業務評価」にもさらされます。FD委員会の範疇には収まらないことですが、本学の教員が教育および研究に専心できるよう、組織的なバックアップやストレス軽減、仕事量の適正化など、安心して働ける環境作り職場作りを目指したいと思います。

3. 総括の最後に申し上げたいのは、本学教員の授業改善に取り組む真摯な姿勢です。コメントから垣間見えるのは、授業への熱意と、一人一人の学生に丁寧に接しようとする姿です。

また授業アンケートや教員コメントからだけでは、見えないことも示しておきたく存じます。本学には、「学内に長く留まり学生との接触時間を多く取ってくださる先生、次々と研究室を訪れる多数の学生たちに対応する先生、大量のメール返信や添削採点をしている先生、学生の進路相談や人生相談に疲れを見せずに応じている先生、休日返上で学生と遠方に出かけてフィールドワークをされる先生、ゼミコンパや結婚式や同窓会に招かれる先生、プライベートな時間やポケットマネーを学生のために使われている先生」など、本学の教育に多大な尽力をされている先生方がたくさんおられます。本学があるのは、教育に時間と労力を惜しまないこうした先生方のおかげです。その全ての方々にFD委員会は感謝致します。今後とも引き続き、学生のためのご尽力をお願いいたします。